

IV 各学部の実践

1 小学部

日 時：令和5年9月21日（木）
 時 間：10:05～10:50
 場 所：小学部1年教室、校内廊下
 指導者：三国茉由

1 単元名「おまつりバスにのろう」

2 本時の目標（対象児童）

- （1）おまつりバスに乗ることが分かり、教師と一緒に活動に取り組むことができる。（知・技）
- （2）折り紙の色を選びながらバスの飾りの制作をすることができる。（思・判・表等）
- （3）教師の働き掛けを受け入れ、教師や友達と同じ場で活動しようとする。（学・人等）

3 単元での児童の実態

対象児童	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
T・R	・他のことが気になると、離席したり教室を出たりすることがある。 ・見通しがもてる活動や興味のある活動では集中して取り組む時間が増えてきている。 ・制作では、課題の量を調整したり、好きな材料を選ぶ場を設定したりすることで進んで取り組めるようになってきている。	☆自分から短冊状の折り紙やはさみを手に取り、制作しようとする。 ☆おまつりバスに乗り、進んで的当てチケットを探したり、的当てをしたりする。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・気持ちが盛り上がるように、教師は法被を着る。児童も着ることができるよう法被を用意し、誘い掛ける。 ・進んで取り組めるように、短冊状の折り紙を色ごとに紙コップに入れ、材料の量や色を選べるようにしたり、「トッピング何にしますか？」と言葉掛けしたりする。 ・おまつりバスですることや約束を進んで確認できるように、絵や写真を提示したり、クイズ形式にしたりして確認していく。 ・的当て屋さんの活動に進んで取り組めるように、本児が好きな恐竜の的を準備したり、的を当てたら大いに称賛したりする。 ・興味関心をもって取り組めるように、本児が好きな箱バスを活用する。 ・集中して取り組めるように、絵本の読み聞かせ、言葉並べ、制作、バスに乗るなど短い活動を組み合わせたり、学習の場を変えたりする。
--

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10:05	1 始まりの挨拶 2 授業の流れを知る	・見通しをもって活動に取り組めるように、活動の流れをホワイトボードに掲示したり、繰り返し同じ流れで取り組んだりする。	☆気持ちが盛り上がるように、教師は法被を着る。児童も着ることができるよう、誘い掛ける。
10:07	3 「おまつり」の読み聞かせを聞く。	・集中して読み聞かせを聴くことができるように、短い絵本を準備する。	☆読み聞かせに注目できるように、これまでのお祭りの学習を振り返るような言葉掛けをしながら、読み聞かせする
10:10	4 単語カードを並べて屋台の看板を作る。	・文字カードが貼やすいように、貼る場所の高さを調整する。	☆自信をもって取り組めるように、文字カードを貼る場所に薄字の手本を貼っておく。

10 : 15	5 屋台の食べ物を制作する。	- 安全に取り組めるように、はさみの約束（着席して、手元をよく見て切る）を確認したり、手添えで取り組んだりする。 - 気持ちが盛り上がるように、完成したら「一緒に食べよう。」「美味しいね。」と言葉掛けをしたり、大いに称賛したりする。	☆進んで取り組めるように、短冊状の折り紙を色ごとに紙コップに入れて材料の量や色を選べるようにしたり、「トッピング何にしますか？」と言葉掛けしたりする。
10 : 25	6 おまつりバスですること、約束を確認する。	おまつりバスに乗ってどのようなことをするか分かるように、バスに乗る前にパワーポイントで事前学習をしてから乗る。	☆おまつりバスですることや約束を確認できるように、絵や写真を提示したり、クイズ形式にしたりして確認していく。
10 : 30	7 おまつりバスに乗る。 - バスに飾りつけする。 - 的当てチケットを探しに行く。 - 的当て屋さんに行く。	- 安全に活動できるように、廊下を曲がる時に教員間で声を掛け合ったり、児童と約束（バスの上に立たない、仲良く）を確認したりする。 - 的当てに取り組めるように、的とバスの距離を調整したり、「恐竜を倒すよ。」「せーの」と合図したりする。	☆興味関心をもって取り組めるように、本児が好きな箱バスを活用する。 ☆的当てチケットを進んで探せるように、チケットの場所を毎時間変える。 ☆的当て屋さんの活動に進んで取り組めるように、本児が好きな恐竜の的を準備したり、的を当てたら大いに称賛したりする。
10 : 50	9 終わりの挨拶をする。		

6 単元を通した児童の様子・変容

- 紙コップに「いちご」「メロン」などトッピングのイラストを貼り、色ごとに短冊状の折り紙を入れ、「トッピングは何にしますか？」と呼びかけることで、進んで紙コップに近付き、好きな色の折り紙を選んで制作に取り組むことができた。
- 前の机に紙コップを置き、制作の時間はいつでも選べるようにしたり、「（いちごは）残りあと1つです。」「おかわりいかがですか？」と言葉掛けしたりすることで、一通り制作が終わった後も再び材料を選んで取り組むこともあった。
- 事前にやることや約束を視覚支援で確認してからおまつりバスに乗ったり、繰り返し取り組むことで、活動に見通しをもち、進んで的当てチケットを探そうとしたり、約束を守っての的当てに取り組もうとしたりした。

小学部 1 年グループまとめ		対象児童：T・R
研究メンバー	三国茉由	

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

- ・気持ちが盛り上がるように、衣装を用意して誘い掛けたり、BGMや映像等を活用したりした。
- ・活動の流れや約束を進んで確認できるように、パワーポイントでイラストを提示したり、クイズ形式にして確認した。
- ・興味関心をもって取り組めるように、本児が好きな恐竜やボール、箱バス等を教材に取り入れた。
- ・最後まで集中して取り組めるように、絵本の読み聞かせ、言葉並べ、制作、箱バスに乗って探検するなど短い活動を組み合わせたり、学習の場を変えたりした。



2 対象児童の学びがどのように変わったか？

良かった点

- ・学習が始まることを楽しみにしており、進んで衣装を着たり、教材を手にとったりして取り組み始めようとした。
- ・パワーポイントで約束の〇×クイズを行ったところ、進んで「〇だね。」「それは危ないから×。」と教師に伝えることができた。
- ・集中力が切れることなく、最後までみんなと一緒に活動することができた。
- ・事前にやることをパワーポイントで確認したり、同じ流れで繰り返し取り組んだりすることで、活動に見通しをもち、進んで取り組もうとした。

課題点

- ・箱バスに乗りたい気持ちが強く、制作にじっくり取り組むことなく終わってしまった。はさみと両面テープを使った貼り絵は、他の児童にとっては丁度よい課題であったが、本児にとっては物足りなかった。屋台の食べ物を作るというテーマであったため、もっと本物に近い立体的な物を作るような課題でも良かった。
- ・他の学級の友達とも一緒に活動ではあったが、的当てチケット探しや的当てに夢中で、他の児童との関わりは見られなかった。



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・色々な活動を組み合わせることが特に有効だったため、他の授業でも生かしていく。
- ・児童の実態に合った課題を再検討する。
- ・友達と関われるような場を設定する。

小学部2年 生活単元学習 略案

日時：令和5年10月12日（木）

10月19日（木）

時間：10：35～11：15

場所：小学部2教室、廊下

指導者：T1 佐藤香織

1 単元名「仲良し2年生」

2 本時の目標（対象児童）

- （1）みんなと一緒に活動することが分かる。（知・技）
- （2）自分から片栗粉を繰り返し触って活動し、表情を変えたり、声を出したりなどしながら存分に活動することができる。（思・判・表等）
- （3）教師や友達に、身振りや言葉で気持ちを伝えようとする。（学・人等）

3 単元での児童の実態

対象児童	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
O・K	・感触を伴う活動は好きであり、集中している様子がある。しかし早く終わると、自分のやりたいクレヨンでのお絵かきを要求し、教師が応じないと泣く。 ・友達が使っている素材や道具を勝手に持ち出し、トラブルになることがある。 ・物を指定した位置に片づけるなどの簡単な片付けは、教師の誘い掛けで行うことができる。	☆自分から素材に手を伸ばし、みんなと一緒に時間一杯活動することができる。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・活動の見通しがもてるように、毎時間同じ流れで活動を進める。
- ・飽きることなく活動できるように、教師が少しずつ片栗粉に水を足し、形状の変化を言葉にしながら教師も共に遊ぶ。
- ・子どもからの「水を足してほしい」という発信を認めたり、共感したりする。
- ・遊び方（ブルーシートの上で遊ぶなど）を言葉や行動で示す。

5 本時の展開

時刻	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：35	1 小2教室に集合し、始めの挨拶をする 2 授業の流れを知る 3 校外学習についてのスライドや写真を見る	・活動内容を紙に書いて貼り、説明する。 ・目標を意識できるように、スライド内の「みんなと一	

1 1 : 1 5	4 みんなで廊下を歩き、「かたくりこひろば」(小2教室)に到着する。 5 片栗粉を触る。 ・乾いた片栗粉 ・片栗粉粘土 ・水溶き片栗粉 6 終わりを知る。片付け、着替えをする。 7 終わりの挨拶をする。	緒」「なかよく」に触れる。 ・廊下をみんなで離れずに歩く。その間に T2 は場の設定を行う。 ・手の汚れが気になる児童のために、一人1枚手拭きを用意する。 ・一人1枚レジャーシートを敷き、その上で着替えるように促す。	☆ 時間一杯、みんなと一緒に活動することができるように、児童の様子を見ながら片栗粉に水を足す。 ☆ 友達と関わるできるように、友達の様子を言葉にして伝えたり、教師がモデルとなって示したりする。 ☆ 簡単な片付けができるように、片づけ方や場所は毎回同じにする。
-----------	---	---	---

6 単元を通した児童の様子・変容

- ・活動の流れに見通しをもち、自分からくつを脱いだり、ブルーシートを用意したりして、楽しみにしている様子が見られた。
- ・粉状や粘土状の片栗粉が好きで、自分の遊び方で感触を楽しんでいたが、友達が水を加えてとろとろ状にして遊んでいるのを見て、「みず。」と言ったり、「ちょうだい」のサインをしたりすることで教師に気持ちを伝えるようになった。
- ・自分のタイミングで終了するのではなく、時間一杯、友達と同じ場で活動することができた。
- ・最初は友達の片栗粉が入っている容器を自分の方に引き寄せる行動が見られたが、繰り返すことで一人一つの容器で遊ぶことが分かり、友達の片栗粉を欲しがることがなくなった。

小学部 2 年グループまとめ	対象児童：O・K
研究メンバー	佐藤香織、猪股桂子（沖田菜寧、齊藤良昭）

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

- ・視覚優位の特性を生かし、一日の流れではイラストと写真、事前学習や学級の約束事ではパワーポイントを活用した。
- ・興味・関心が高い絵の具遊びや感触あそびを取り入れ、自分から活動することをねらったり、学習に向かう時間が長くなったりするようにした。
- ・自分の好きな活動（お絵かき）を一日一度は確保し、集中して学習に向かえるようにした。
- ・本人からの発信を待って、伝えたいことを言葉にして確認した後、要求に応えるようにした。
- ・発信がないときには、本人がやっていることと同じことを行ったり、一緒に楽しんだりして、共感するようにした。
- ・繰り返しの学習を計画し、できることを増やしたり、自信を付けたりできるようにした。



2 対象児童の学びがどのように変わったか？

良かった点 ・最後までみんなと一緒に活動することが増えてきた。 ・自分のしたいことを実行するとき、前はやりたかったと思いつつも、自分で勝手にものを取り、始めてしまっていた。最近は自分で勝手に始めるのではなく、「かみ。」と教師に欲しいことを伝える姿が見られるようになった。 ・好きなお絵かきをやりたかったと伝えたとき、「今すぐはできないが、この学習の後是可以する」ことを、日課表を使って話すと、我慢できることも少しずつ出てきた。	課題点 ・短縮日課のときは、昼休みのイラストをはずすだけではなく、日課のボード自体を別の色のものに代えて違いに気付けるようにしたり、昼休みがないことを身振り交じりに伝えたりしているが、納得できず泣いてしまう。 ・学習中、友達の様子を見ることはできるようになってきたが、本人が好きで長く活動できる絵の具遊び、感触遊びでは友達との直接的な関わりは生まれにくく、関われるように仕組んでいく必要がある。
--	---



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・興味関心の高い活動を用意するだけではなく、友達と近い距離で活動したり、教材を共有して活動したり、一緒にものを持つなど協同する場面を設定したりして、さらに友達と関われるような学習を仕組む。
- ・今年度は活動の準備、片付けを教師が行ったが、準備や片付けの一部でも、子どもがやれることを用意する。
- ・自分の気持ちを伝えられるように、実物を指さす、言葉で伝えるなど、できる方法を予想し、本人からの発信を待つことは、有効だったので生かしていきたい。

日 時：令和 5 年 9 月 2 8 日（木）

時 間：9：40～10：25

場 所：小学部 3 年教室

指導者：T 1 安達 莉々

T 2 齋藤 みさ子

1 単元名 『いろいろなかたち』

2 単元の全体目標

- (1) 身の回りにあるものを形や用途に着目して分類することができる。 (知識及び技能)
- (2) 形や用途に着目し共通点について考えて、分類する方法に気付くことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 身の回りにあるものの形や用途に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 指導にあたって（☆は研究テーマに関わる内容）

(1) 児童について

- ・小学部 3 年生は男子 4 名、女子 2 名の学級集団である。
- ・6 名とも形のマッチングや型はめをすることができる。
- ・4 名は、大きさや色の異なる形カードを形に着目して丸三角四角に分類することができる。
- ・4 名は、形の分割カードを正しく組み合わせることができる。
- ・「この形は何ですか？」という質問に、言葉や身振りで丸三角四角を表現する児童もいる。
- ・友達が活動する様子を見てやり方を理解する児童もいる。
- ・活動に取り組むにあたり有効な支援として、教師の手本を見ることや友達の活動する様子を見ること、繰り返し取り組むことなどである。

☆ホワイトボードでカードやマグネットを操作する活動は、これまで様々な単元で取り組んできた。できたときに他の児童に拍手をしてもらえると、笑顔になったり自分で拍手をして喜んだりする様子が見られる。また、友達の様子を見てやり方を理解すると、自分から活動に取り組もうとする様子も見られる。

対象児童	期待される主体的に活動する姿（・単元における実態 ☆主体的に活動する具体的な姿）
S・T	・大きさや色の異なる形カードを使った学習では、形に着目して丸三角四角に分類することができる。 ・形を見て「赤い丸」や「小さい三角」などつぶやく様子が見られる。 ・初めての活動には抵抗があるが、教師の手本や友達の様子を見てから取り組み始めることで自分からどんどん進めることができる。 ・勝負が伴うゲーム性のある活動には特に意欲的に取り組む。 ・友達の様子もよく見ており、間違いに気付くと正そうとする。 ☆形分けゲームでは、自分から繰り返しカードを取り、丸三角四角に分類する。 ☆ゲーム終了後、「もう 1 回！」と言ったり、できたことに笑顔で喜んだりする。

	単元の個別目標（対象児童）
	（１）身の回りにあるものを形や用途に着目して分類することができる。（知識及び技能） （２）形や用途に着目し共通点について考えて、分類する方法に気付くことができる （思考力、判断力、表現力等） （３）学習活動に楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。 （学びに向かう力、人間性等）

（２）教材観

- ・ホワイトボードを使ってカードやマグネットを操作する活動は、これまで国語や算数で何度も取り組んできたため、児童が安心して取り組める活動である。
- ・本単元の最初では、単色の丸三角四角のカードで形の名前を知ったり、それぞれの形の特徴を学習したりする。これらの学習を生かして、本時では身の回りにあるもののなかにも丸三角四角のものが様々あることに気付いたり、身の回りにあるものを形として捉えたりすることができるようにしたい。

（３）指導観

- ・形の名前をより印象深く学習することができるように、形の名前を確認する場面では、児童と一緒に手や腕を使って楽しく形を表現する。
- ・身の回りのもののなかには、丸、三角、四角があることに気付くことができるように、児童の身近なものや場所を撮影し、タブレットでピンチアウトしながらどんな形が隠れているかを確認する。
- ・生活の中には、児童が実際には触れて確かめることはできない場所に形がある場面も多い。（例えば、掛け時計や道路標識など）このことから、実物ではなく写真カードを用いて学習を進めていく。ただし、視覚だけでなく触覚でも形の特徴を捉えることができるように、写真カードには厚みをつける。
- ・ゲーム形式で形を分類することで、楽しく形や用途に着目しながらどんな仲間なのかを考えられるようにする。児童の中には、自分で瞬時に判断して分類できる児童と、教師と一緒に落ち着いて考えることで分類できる児童などがおり、実態が様々である。このことから、ゲーム形式で楽しく学習する場面と、一人一人の実態に応じた個別の課題を行う場面を設定することで、全員が楽しみながらも身の回りのものについてよく見て考えることができるようにしたい。

主体的に活動するための支援と手立ての工夫
・自分から活動に取り組むことができるように、これまで繰り返し取り組んできた活動の要素を取り入れる。 ・興味をもって学習に取り組むことができるように、ゲーム形式の活動を取り入れたり、親しみのあるものや好きなキャラクターなどの形を話題にしたりする。 ・自信をもって活動することができるように、正しく形を分類したり、間違いに気付いて直したりすることができたときは、拍手をしたり称賛の言葉掛けをしたりする。 ・繰り返し形カードを分類することができるように、ゲーム形式での活動を取り入れる。

4 指導計画（10時間 本時6/10）

時 間	主な学習内容
1～3	・丸、三角、四角の名前を知る。 ・色や大きさの異なるもので、丸、三角、四角に分類する。
4～7 (本時6時間目)	・身の回りにあるもののなかには、丸、三角、四角のものがあることを知る。 ・身の回りにあるもので、丸、三角、四角に分類する。
8～10	・同じものでも、違う要素に着目すると違う仲間分けができることを知る。 ・身の回りにあるものを用途に着目して分類する。

5 本時

(1) 本時の全体目標

- ①身の回りのものの形に着目して、丸、三角、四角に分類することができる。(知識及び技能)
- ②丸、三角、四角を考えながら分けたり、形の特徴に気付いたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ③学習活動を理解して主体的に取り組み、友達の様子を見ながら学ぼうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の個別目標

児童	本時の目標
S・T	・身の回りのものの形に着目して、分類することができる。(知識及び技能) ・身の回りにあるもので属性の異なるものであっても、形のみに着目して形の仲間を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等) ・形に関心をもち、学習活動に楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(3) 展開

時間	活動内容	・導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
9:40	1 始まりのあいさつ 2 絵本『かたちのおしゃべり』の読み聞かせを聞く。 3 形ゲーム	・学習への気持ちに切り替えて始めることができるように、姿勢を整えて挨拶をする。 ・学習の見通しをもつことができるように、活動の流れを写真で確認する。 ・絵本に興味をもてるように、動作や声色を工夫して読む。 ・T1は、形の名前や特徴を想起することができるように、言葉と動作で確認する。 ・ホワイトボード全体が一目で見えるように、ホワイトボードと児童の椅子を離す。 ・T2は、自分から活動に向かうことが難しい児童に、形カー	・T1は、活動に見通しをもてるように、やり方の手本を示す。 ・自信をもって活動することができるように、拍手をしたり称賛の言葉掛けをしたりする。 ・興味をもって活動できる

10 : 25	4 個別の学習 5 終わりのあいさつ	ドを取りに行くよう誘い掛ける。 ・友達の様子に目を向けられる言葉掛けをする。 ・T1は、形に着目して確認できるように、丸、三角、四角の仲間を一つずつ指さして確認する。 ・気持ちを切り替えて個別の課題に取り組むことができるように、姿勢を正してから始める。	ように、ゲーム形式の活動を取り入れたり、親しみのある身近なものの形を教材に取り入れたりする。 ・自分で課題をすすめることができるように、形分けゲームを同じやり方のプリントを用意する。(形カードは新しいものも追加する。)
---------	----------------------------------	---	--

6 単元を通した児童の様子・変容

- ・形分けゲームでは、自分からカードを取り、丸、三角、四角に分類することができた。
- ・ゲーム性のある活動を取り入れたことで、「もう1回。」と言ったり、できたことに笑顔で喜んだりする姿が見られた。
- ・個別の学習では、見通しをもって黙々と学習に取り組む姿が見られたが、何ができたのか、何を学習したのかななどを振り返ったりまとめたりする場面がなかったため、達成感が薄かったと考えられる。

小学部 3年 生活単元学習 略案

日 時：令和5年11月1日（水）

時 間：9：40～10：25

場 所：3年教室

指導者：T1 齋藤 みさ子

1 単元名「焼きいもをしよう」

2 本時の目標（対象児童）

- （1）「焼きいも」「燃える」「熱い」など、焼きいも体験に関わる言葉を模倣したり読んだりすることができる。（知・技）
- （2）画像を見て話をしたり、楽しかったことを伝えたりすることができる。（思・判・表等）
- （3）興味をもちながら画像を見て、進んで話をしようとする。（学・人等）

3 単元での児童の実態

対象児童	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
S・T	・さつまいもの収穫では、大きなさつまいもを何とか掘ろうと頑張る姿が見られた。 ・畑で育てたさつまいもを、「自然の家」に持って行き焼き芋にする、という話をパワーポイントの画像を見ながら興味をもって聞いていた。 ・「自然の家」では、焚き火作りの際、お手本と同じように薪を一本ずつ組み立てたり、葉を焚き火に入れたりするなどの活動を進んで行うことができた。 ・見通しがもてると、落ち着いて活動できる。急な予定変更があっても、前もって伝えてもらおうと落ち着いて活動できるようになっている。	☆さつまいもの収穫、焼きいも作りなどの活動に興味をもち、進んで取り組もうとする。 ☆校外学習の事前、事後の学習では、パワーポイントの画像に興味をもって見たり、活動する（した）ことについて自分から、または教師に質問されて話をしようとしたりする。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

・テレビ画面に映し出される画像は注目しやすいので、事前、事後の学習はパワーポイントで写真や絵などを画面に映しながら行う。 ・繰り返しの活動を行うことで見通しをもち、自分でできる活動が増えるようにする。 ・経験する（した）ことの写真や絵を使いながら、児童の気持ちに寄り添った言葉掛けをしたり、興味関心をもちそうなことについて質問したりするよう心掛け、少しでも児童から話を引き出せるようにする。 ・児童の主体的な活動を尊重し、称賛したり見守ったりする。また、さらに活動が広がるような言葉掛けや見本の提示などの支援を行う。

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
9：40	1 始まりの挨拶をする。 2 授業の流れを知る。	・見通しがもてるように、初めに活動内容を提示する。	
9：43	3 校外学習にいつ行ったか、何をしたかを思い出す。	・思い出しやすいように、学校、自然の家、バスの写真を見せたり、さつまいもを見せたりする。	☆自信をもって話ができるように、拍手をしたり、称賛の言葉掛けをしたりする。
9：50	4 校外学習の写真を見る。	・写真に注目できるように、パワーポイントで写真を見せる。 ・活動の様子と文のマッチングができるように、写真と合わせて様子を短い文で提示する。 ・児童の表現を引き出せるよう	☆進んで話ができるように、S・Tが頑張った活動や、興味をもったことについて取り上げる。

10:00	5 楽しかったこと、頑張ったことを伝える。 ・活動の写真カードの下に自分の顔写真を貼って伝える。 ・発表する。	に、「何をしているの?」「～だったよね。」などと児童に話し掛けながら写真を見せる。 ・楽しかったことを選べるように、活動ごとの写真カードを貼る。 ・「～が楽しかったです。(頑張りました。)」と発表できるように、話し方の模倣を促す。 ・本時では、日時と「やきいもをした」をなぞったり絵を貼ったりし、次時に楽しかったことについて書くことを伝える。 ・T1は、T、Y、T・Kの支援、T2は、A、M、O・Kの支援をする。	☆自分で楽しかったことや頑張ったことを伝えられるように、活動ごとの写真カードを数枚提示し、その中から選ぶようにする。 ☆話すことが難しいと感じないように、無理なく模倣を促す。 ☆自分でプリントに書けるように、大きめの文字をなぞるようにする。
10:10	6 プリントにまとめる。		
10:25	7 終わりの挨拶をする。		

6 単元を通した児童の様子・変容

- ・自然の家で行った焚き火作りは、S・Tにとってとても魅力的な活動だった。進んで薪を組み立てたり落ち葉を入れたりして働くことができた。そのような心に残る体験活動をしたことで、振り返りでは、「また行きたい。」「自然の家。」「楽しかった。」など自発的な言葉が聞かれた。また、掲示した活動ごとの写真カードの中から一番楽しかったことや頑張ったことをすんなり選び、教師の模倣をしながら「～が楽しかったです。」と発表できた。振り返りをプリントにまとめる学習（写真を貼る、なぞり書きをする）にも意欲的に取り組んだ。
- ・サツマイモの収穫では、土の中にサツマイモの一部を見つけると、掘り出そうと一生懸命な姿が見られた。自分が掘った大きなサツマイモに満足気だった。

小学部 3 年グループまとめ	対象児童：S・T
研究メンバー	安達莉々、齋藤みさ子

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

- ・繰り返しの活動を行うことで、見通しをもつことができ、自分でできる活動が増えるようにした。
- ・児童の主体的な活動を尊重し、称賛したり見守ったりした。また、さらに活動が広がるような言葉掛けや見本の提示などの支援を行った。
- ・興味をもって学習に取り組むことができるように、親しみのあるものや好きなキャラクターなどを教材に取り入れたり、ゲーム形式の活動を取り入れたりした。
- ・自信をもって活動できるように、正しくできたり、間違いに気付いて直したりすることができたときは、拍手や称賛の言葉掛けをした。
- ・学習の初めに活動内容を伝え、見通しをもって安定した気持ちで取り組めるようにした。また、変更がある場合は丁寧に説明し、児童が納得して活動に向かえるようにした。
- ・次にやるべきことを考えて自分で行動できるように、錯綜しやすい給食後から昼休みまでの動きを整理し、視覚支援教材を作成して行動の順番を提示した。
- ・発表するときは、お手本になる児童の様子を見てやるのが分かり、自信をもって発表できるように、発表の順番に配慮した。



2 対象児童の学びがどのように変わったか？

良かった点 ・給食後から昼休みまでの流れが分かり、視覚支援教材を提示しなくても自分で行動できるようになってきた。 ・興味関心をもって楽しく活動した後は、「また行きたい。」「もう一回やりたい。」などと自発的に話をしたり、自分から繰り返し遊んだりした。 ・気持ちの切り替えが早くなり、スムーズに別の活動に移れることが増えてきた。	課題点 ・変更を受け入れられないときや、思い通りにいかないときなど、気持ちが不安定なときに、つばを吐いたり人や物に当たったりすることがある。 ・他のクラスの児童が自分の教室に入ることを許せず、「出ていけ。」などの乱暴な言葉を使ったり、教室の外に押し出したりすることがある。
---	--



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・授業の振り返りの時間をしっかり設け、個人の頑張りをみんなの前で認める機会を設定していく。
- ・自分で考えたり工夫したりする時間を確保する。そのために、事前の教材準備や活動の吟味を丁寧に行っていきたい。
- ・活動内容を整理する。多くても四つ程度にしぼる。初めは視覚支援を提示し、徐々にそれがなくても自分でできるようになることを目指す。
- ・事前に分かる変更点は早めに予告する。
- ・経験を広げるために、新しい活動を積極的に取り入れ、チャレンジできるようにする。

日 時：令和5年6月12日（月）
 時 間：10：30～11：15
 場 所：小学部4年教室
 指導者：T1 野村 純子

1 単元名「おとうさん、ありがとう」

2 本時の目標（対象児童）

- （1）お父さんにプレゼントを作ることを知り、霧吹きやのりを使ってうちわを制作することができる。（知・技）
- （2）模様の形を選んだり、並べ方を工夫したり、色の組み合わせを考えたりすることができる。（思・判・表等）
- （3）使うものを取りに来たり、ありがとうの花束作りに進んで取り組もうとしたりすることができる。（学・人等）

3 単元での児童の実態

対象児童	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
S・T	- これまで経験したことのある活動は、材料を見るとをすぐに取りかかることができる。 - 苦手だと感じる活動の時は、教師の手を取り、手添えして欲しいことを求めてくる。 - 絵の具の活動は、筆を使って行ったことがあるが、霧吹きは初めての活動である。 - 大きな両面テープの剥奪面を剥がすことは算数でやっている。細い両面テープは初めてである。 - 水が大好きなので、楽しいと活動を途中で止めなくなる可能性がある。 - 使った絵の具の片付けを率先して行おうとする。 - 自分で回数を数えることはできないため、教師と一緒に数える必要がある。 - 三つから一つ選択することは難しかったが、二択だとできたことがある。 - 一つの活動が終わるとそのまま座っていることが多い。残った時間の使い方を考えることが難しいが、目の前に「やってみる？」と見せると、うなづいて手を伸ばしたり、首を横に振ったりできる。	☆自分から色を選んだり、形を選んだりできる。 ☆自分から用具に手を伸ばしたり、取りに来たりすることができる。 ☆時間いっぱい活動することができる。

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- 一時間の学習活動の流れを同じにすることで、見通しがもてるようにする。 - 写真を提示することで、相手意識を持たせる。 - 絵本の読み聞かせをしてから制作することで、大好きな気持ち、ありがとうの気持ちを感じて活動できるようにする。 - 色や形を提示するとき、二択にする。 - 視覚支援タイマーを用いてみる。 - 好きな活動、得意な活動を用意することで、時間いっぱい活動できることを期待する。

5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：30	はじまりの挨拶 ・今日の予定を知る。	・板書では、単元名、父の写真、活動内容だけにし、すっきりさせる。	☆毎回同じ活動の流れにする。
10：35	1 読み聞かせ ・「パパといっしょ」 ・写真 ・イラスト	・文が少ない絵本にする。 ・父の写真やイラストを提示し、一緒にする好きなことを選べるようにする。	☆相手意識をもてるように「おとうさん」の文字の近くに父の写真を貼る。 ☆児童Tには、二択にする。
10：40	2 うちわ作り（15分） ・形を貼る ・霧吹き ・のり	・予め貼った両面テープの剥奪面を児童が剥がして、和紙に貼るようにする。 ・色を選び、教師と一緒に	☆完成見本のうちわを掲示し、見通しを持たせる。 ☆児童Tには形も色も2択にする。

10:55	3 ありがとうの花作り (15分) ・花開き ・切って貼って ・ちぎって貼って	数えながら4回霧吹きをする。 ・2パターン用意する。大きさや色を変えておき、児童が作りたいありがとうの花を選べるようにする。 ・花Bは、必要に応じて切るところに線を書いておく。 ・花ができればストローの軸を貼り付けて飾ることで、毎時間、増えていくが分かるようにする。	☆歩いて材料を取りに来ることがまだ少ないため、自分の机の前に材料を乗せた白長テーブルを置き、視野に入るようにする。 ☆制作見本を材料の近くに置くことで、見通しを持たせる。 ☆児童が得意な活動を入れておく。
11:10	4 みてみて拍手タイム ・作ったものを見せ合う	・作ったものを見せ合い、拍手をしたり、「喜ぶね。」と評価したりする。	☆自分が今日作ったものを指さして伝えることができるように支援する。
11:15	終わりのあいさつ	・「今日もがんばったね、もうすぐ完成だね。」と言葉掛けする。	

6 単元を通した児童の様子・変容

・見えるところで、手を伸ばすと届くところに材料を置いたり、二択にしたりしたことで、自分から使いたい色を指さしで選べる姿が増えた。 ・1時間の活動の流れを同じにしたことで、戸惑うことなく活動し、回数を増すたびに自分から使うもの（のり）を要求するようになった。 ・お父さんの写真やプレゼントの見本を掲示したり、実演したりしてみせたことで、イメージをもって活動に取りかかれた。 ・「みてみてタイム」をした。初回は、「これ、作ったね。」と教師が指さしの手本を示した。回数を重ねることに、手本を示さなくても手で触って伝えるようになった。 ・できたありがとうの花を花束ケースに入れるのを忘れて、初回の時に、ホワイトボードにマグネットで押さえるようにしてしまったことで、最後までずっとその方法だった。初回がとても大事だと痛感した。 ・得意な活動も取り入れたことで、ちぎってのりで貼る花作りに取り組み、時間いっぱい活動できた。 ・友達が使っているのをまねして、はじめての活動と思われるセロハンテープでストローを貼ることに最後の日にチャレンジしていた。友達の様子を見てまねすることができることが分かった。

小学部4年生グループまとめ	対象児童：S・T
研究メンバー	芦野順子、野村純子

1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫 ・一時間の学習活動の流れを同じにすることで、見通しがもてるようにする。 ・写真や完成見本を提示することで、相手意識、活動の見通しをもてるようにする。 ・制作工程に合わせたタイミングで、道具を提示する。 ・教師も隣で制作し、手本となる。 ・絵本の読み聞かせや手遊び歌を歌うことで、雰囲気作りをする。 ・材料や色や形を選択するとき、2択にする。 ・好きな活動、得意な活動を用意することで、時間いっぱい活動できるようにする。 ・動画を使い自分の活動を振り返ることでできていることを確認し、意欲を高める。
--



2 対象児童の学びがどのように変わったか？	
良かった点 ・学習の流れを同じにしたことで、前時にやったことを記憶できる対象児S・Tにとって、自分から主体的に動くことにつながった。 ・得意な紙をちぎって貼る活動を用意すると、時間いっぱい活動できた。 ・材料や色を選択するとき、2択だと選びやすいことが分かった。 ・隣で教師も制作して手本を示したことで、セロハンテープを適切な長さで切り取れるようになってきた。隣で制作する支援も有効である。 ・少しずつステップアップする繰り返しの学習計画にしたことで完成した作品に満足し、自分から頑張ったところを強くアピールしていた。 ・発表する場を繰り返し設け、周りからの評価をもらったことで自信につながり、意欲が高まった。	課題点 ・準備不足でとりあえず磁石でホワイトボードに貼り付けて友達と見合ってしまったことで、次時に正式の方法でやろうとしても、変更ができなかった。初発がとても大事である。 ・小さなものをのりで貼るのは、左手で紙を持ち、右手でのりを持ち、持ち上げた紙にのりをつけ上手だったが、台紙の上に置いて周りにのり付けすることには不慣れなので、学習機会を設けたい。 ・はさみを使って、決まったところを切る制作では、切る場所に線を引いたりしても一人では難しかった。印に注目できるようにする必要がある。 ・活動の終わりをはっきり提示しなかったことで、時間内で活動を区切ることができなかった。実態把握をし、初めに提示したい。



3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点 ・場の設定を吟味する。学習活動のやり方を途中で変えない。初発指導を大事にする。 ・好きなことや新しいことを取り入れた教材開発をする。 ・相手意識を持たせたり、直接交流の場を設けたりする。 ・繰り返しを大切に学習計画をたてる。
